

## 米海軍ミサイル巡洋艦「シャイロー」の函館港寄港に反対する集会

「函館港の軍港化を許すな！」「米海軍シャイローはでてゆけ！」。

小雨の降る中、函館北埠頭にシュプレヒコールが鳴り響いた。

5月16日8時30分、米海軍ミサイル巡洋艦「シャイロー」（10900トン）の函館港寄港に反対する集会が、函館北埠頭において行われ、組合員80名が集まった。



米仏海軍測定艦・米海軍掃海艇・ロシア駆逐艦等々、毎年のように函館港には各国軍艦が入港し、商業港としてのイメージ悪化は避けることができない状況下にもある。



5月8日、函館地区連合会、北海道・道南平和運動フォーラム、民主党函館支部の3団体による函館市に対する寄港反対の申し入れ行動を行ったが、団体や市民の多くの声を無視して巨大な船影が商業港に着岸しようとしていた。

道南地域平和運動フォーラム・鎌田事務局長の司会でスタートした入港反対集会は、「親善・親睦を名目に既成事実を作り上げ、国内の民間港を準軍港化として固定化していこうとする狙いがある。多くの市民の安心・安全のためにも決して認められるものではない。」と主催者側からの訴えが行われた。

連合北海道から寄せられた「連帯メッセージ」が読み上げられ、安倍政権の有事体制構築へ向けた危険な道を進もうとしている動向に警戒心を持って行動を展開していくアピール文が提案された後、今まさに入港をしようとする米艦・「シャイロー」に向けて声高らかにシュプレヒコールを行って集会を終えた。

